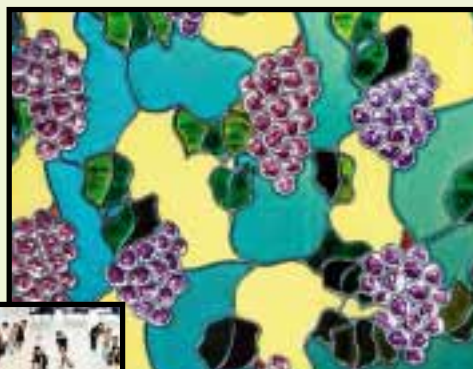


# WW ぶどうの樹

NO. 9

長崎学院創立65周年・長崎外国語大学開学10周年  
記念式典特集号



## 新ラウンジ完成！

在校生インタビュー 藤田 勇樹さん  
ホストファミリー募集！  
コラム「私の一冊」

# 特集 長崎学院創立65周年・ 長崎外国語大学開学10周年 記念式典

2011年12月3日、長崎外国語大学ホールにおいて長崎学院創立65周年・長崎外国語大学開学10周年記念式典が挙行されました。長崎学院は、その前身である長崎キリスト教青年会(長崎YMCA)が1947(昭和22)年に長崎馬町教会に長崎外国語学校を開設してから今年で65年目を迎えます。また、長崎外国語大学が現キャンパスにおいて2001(平成13)年に開学してから今年で10年となります。今号では、特集として栗屋曠理事長、石川昭仁学長の記念式典での式辞を掲載するとともに、式典に引き続き行われたコンサート、また記念事業として竣工した新学生ラウンジや祝賀会の様子をお知らせいたします。



栗屋 曠 長崎学院 理事長

本日ここに、吉田義徳時津町長様、中華人民共和国駐長崎総領事館 李文亮総領事閣下、キリスト教学校同盟 佐藤東洋土理事長様、学校法人九州文化学院 阿部直樹理事長様、学校法人活水学院 院長野々村昇様、学校法人鎮西学院長崎ウエスレヤン大学 学長森泰一郎先生、同窓会の皆様、保護者会の皆様、歴代の理事長・学長の方々並び旧教職員の方々



記念説教は本学の初代宗教主任 緒方 純雄先生が行った

## 式 辞

長崎学院 理事長 栗屋 曠

3・11の東日本大震災でなくなられた多くの方々のご冥福をお祈りし、一日も早い復興を念じまして、挨拶に入らせて頂きます。

をはじめ他多くの各界の方々をお迎えし、教職員、学生諸君ともどもこの栄えある式典を開式できましたことは、この上ない喜びであるとともに、光栄の極みでございます。

創立より65年の間、数多くの苦難・辛苦を乗り越え、今日の長崎学院・長崎外国語大学の地位を築いて下さった創立者をはじめとする先人に対して、深甚なる敬意と衷心からの感謝を表すものでございます。

まずはこの65年を振り返ってみたいと思います。

当学院の在る長崎は、1571年(元龜2年)開港され、長崎は鎖国時代唯一西欧に開かれた窓口で、ご案内のように

## 日本の将来を担う人物は、世界的な視野と教養を身につけた人格者で在らねばならない

日本の近代化に大変寄与した街でした。その長崎は、1945年8月9日たった一発の原爆によって廃墟となりました。その灰燼くすぶる中で、本学設立の準備が始まったのでございます。

長崎馬町教会の牧師であった創立者の青山武雄先生は考えました。

第二次世界大戦の終結は日本の社会に深刻な衝撃を与え、未曾有の精神的・物質的荒廃をもたらしました。一切をなげうって戦場に赴いた学生や生徒は挫折感と絶望にうちひしがれ、虚脱状態でありましたから、彼らに何より学ぶ場を用意して、彼らに学ぶ意欲と喜びを取り戻させたい。そして新しい日本を担う人材育成を決意したのです。



卒業生や元教職員の姿も数多く見られました

青山先生を中心とした創立者たちが教育の基本に据えた理念はプロテスタント・キリスト教主義でした。日本の将来を担う人物は、世界的な視野と教養を身につけた人格者で在らねばならない。争

いのない世界平和と人類の共存共栄の理想を実現するためには、外国語を用いて異なる国々の人々と対話し、異文化を理解し尊重する若者を養成しなければなりません。そして日本の良心たるそのような自立した人間の教育の基盤は、キリスト教の「隣人愛」「献身と奉仕の精神」「真理と自由の探求」という普遍的な価値観にこそ置かれるべきである、と創立者たちは考えたのであります。

繰り返しになりますが加えて、古くから海外との交易で栄え、江戸時代には海外文化移入の一大拠点となり、維新前すでにわが国最初の外国語学校が開設されて日本各地から有為の青年たちがはせ集い、近代日本の揺籃となった長崎、そし

ていまなお国際的雰囲気の色濃くとどめる長崎は、外国語教育に最適の地でもありました。

このような信念のもと、先に触れましたが、1945年12月1日、長崎馬町教会にYMCA仮事務所を設け、YMCA活動開始の準備と長崎外国語学校創立事務所をもつけました。そこで授業が始まりました。これを母体として1947年に長崎外国語学校・専門部・夜間専攻科、1950年には長崎外国語短期大学を設立し、語学教育を通してのキリスト教全人教育に専心してきました。2001年4月に設立された長崎外国語大学は10周年を迎えましたが、「私学は創立のビジョン・精神を継承していく組織体である」の言葉通り、創立者たちの理念が継承されています。学則には、「本学は、教育基本法に則り学校教育法の定める大学として、キリスト教精神に基づき、外国語と国際文化に関する知識を教授研究し、国際的な視野と円満な人格の涵養を図り、もって地域並びに人類社会の福祉と発展に寄与しつる人材を育成することを目的とする」と謳っています。

校舎は1948（昭和23年）元大工町1959（昭和34年）住吉町・泉町



小西哲郎 長崎学院 宗教主任

1996（平成8年）現在地と移転しましたが、この理念は堅持されています。

本院のこの建学の精神は、創立記念日やスクールモットー、さらには校章に表されています。創立記念日は12月1日であり、スクールモットーは、「わたしは道であり、真理であり、命である」というイエス・キリストの言葉であり、その「道・真理・命」を意味するラテン語のVIA VERITAS VITA（ウィーア・ウエリタース・ウィータ）が校舎正面に大きく掲げられています。また校章はその頭文字のVを三つ組み合わせたデザインとなっています。

「道・真理・命」はヨハネによる福音書14章6節からですが、6節全文は「イエスは言われた。『私が道であり、真理であり、命である。私を通らなければ、誰も父のもとに行くことができない』と記してあります。」

この言葉はイエス・キリストが十字架にかかる前夜、最後の晩餐の席で決別の言葉として語られた言葉であります。そして主イエスとは私たち一人一人にとって、どのようなお方であるかを、ひと言で言い表しているこの聖句はヨハネによる福音書の中でも特に大切な聖句とされています。

この創立者たちの理念、建学の精神は本学が続く限り、堅持することが残された我々の使命だと思ひ、次の一歩を踏み出したいと考えています。

ご出席の皆様、特に卒業生の皆様、保護者会の皆様のご理解、ご指導、ご支援を頂き、私たち教職員の努力の相乗効果が相まって、輝ける大学を創造する道が

拓けることを願って、私の挨拶とさせていただきます。

## 式 辞

長崎外国語大学 学長 石川昭仁

本日ここに、わが長崎学院創立65周年、長崎外国語大学開学10周年記念式典を挙行するにあたり、「ご来賓としてご臨席を賜りました皆様方に対し、まずもって心より感謝と御礼を申し上げます。また、本学学生諸君をはじめ数多くの長崎学院、長崎外国語大学関係者の皆様とともに、この栄えある式典を催すことができましたことは、この上ない喜びであるとともに、光栄の極みでございます。」

長崎学院は、長崎外国語学校を起源として、1945年、第二次世界大戦が終わった年に発足しました。長崎は、広島とともに原子爆弾の悲慘を経験した町です。長崎学院は、原子爆弾の惨禍の中で、戦争に対する深い反省とキリスト教的人間愛の精神に基づいて創設されたのです。その根本にあったのは、世界の平和と人類の共存共栄のためには、若者たちが外国の言葉を学び、その背景にある各民族の豊かな歴史や文化、ものの考え方やものの感じ方を学び、国や民族を超えて相互に深く理解し合うことが何よりも大切であるという理念です。

この理念を実現するために、1950年に長崎外国語短期大学が開学いたしました。その学則には、「キリスト教精神に基づき、外国語と国際文化に関する知識を教授研究し、国際的な視野と円満な人



石川 昭仁 長崎外国語大学 学長

格の涵養を図り、もって地域並びに人類社会の福祉と発展に寄与しつる人材を育成する」ことを目的とする、と謳われております。この長崎外国語短期大学も、ちょうど60年にわたるミッションを終えて今年3月をもって閉学いたしました。60歳の遺暦を迎えた我々が「赤い頭巾とちゃんちゃんこ」を身に着け、生まれたときに帰るように、長崎外国語短期大学は、長崎外国語大学として生まれ変わります。長崎外国語大学にその使命を託したいといえます。長崎外国語短期大学の60年の発展の歴史は、幾多の先達の高い志と情熱、そして苦難と努力によるものであり、この記念式典のときに改めて深甚なる敬意を表したいと存じます。

長崎学院60周年記念誌には、短期大学の校旗がつけられた経緯を語った卒業生の思い出が記録されており、当時の短大は、経済的に相当困っていたのでしよう。学生の一人が校旗の製作を大学に要望し、それが難しいと知ると、全学生から寄付を募って集まった相当の金額を大学に提供し、そのことが大学を動かして校旗ができたようです。この校旗に

象徴される幾多の卒業生の母校愛を覚え、敬意を表したいと思います。

2001年に開学した長崎外国語大学は、初代学長光田明正先生のリーダーシップによって、建学の理念を継承して特に国際交流に力を入れ、日本人学生と留学生とが共に学び、交流を深め、知識と経験を分かち合い、学生たちが真に国際的な視野を備えた人間に成長することを教育の目標にしてきました。第二代学長池田統一先生は、困難に直面した長崎学院のために大胆な改革を勇気をもって実行され、新生長崎外国語大学の産婆役として、多大な貢献をなされました。我が大学関係者を代表して心より感謝の意を表します。

## 今ほど「国際交流大学」としての我が大学の真価が問われている時はありません

さて、今、日本は、人口の減少に加え、経済の停滞、東日本大震災、福島原発事故、急激な円高による生産拠点の海外移転、産業の空洞化など、行き先不透明な状況に置かれております。世界に目を向ければ、1991年のソ連崩壊の後、グローバリゼーションと称されるアメリカの一極体制が続きました。しかし、2001年のアメリカの同時多発テロ以降は、2008年以後の世界同時不況もあってアメリカ一極体制が年を追うごとに弱まり、世界秩序のフラット化・多様化が進行し、文化の衝突、国家間の利害の対立が環境問題や労働問題など様々な局面で顕在化しています。このような21世紀社会において、大学は、これまで

人類が歩んできた「歴史や文化」を学ぶとともに、グローバルな視野を持って今日の「世界の諸課題」を理解し、困難にチャレンジしうる、いわゆる「グローバル人材」の育成が強く求められています。伝統は、「堅牢な守りではなく、その内部で常にイノベーション（革新）を生み出すこと」で、持続可能なものになります。昨年、我が大学は、文部科学省の就業力育成事業の指定を受け、「グローバル人材」の育成を目指して、教育の質の向上を図る様々な取り組みにまい進しております。

本年は国際交流協定大学の協力を得て、中国のアモイと台湾の高雄でインターンシップを実施しました。これには中国語

専修の学生に加えて、英語やフランス語の学生も参加し、多言語・多文化を学ぶという本学の教育方針が着実に浸透していることを示しています。また、教育課程の構造化、システム化を図るとともに、学生が日々の学びを記録し、指導を受けながら学習の質の向上させる「学修ポートフォリオ」を構築しているところです。これは、教員中心の教育から、学生たちが主体的自立的に学んでいく教育への転換であり、そのシステムづくりです。卒業時に、具体的にどのような能力が身に付つくのか、なにができるようになるのか、というアウトカムとしての学習到達目標を、あらかじめ学生、教員、保護者に宣言し、学習の進み具合を学生自

身の手で記録し続け、自らより高度な学びへと進んでいくことを目指すものです。これを定着させていくことは、我が大学にとつて、極めて重要な課題だと考えております。

今ほど「国際交流大学」としての我が大学の真価が問われている時はありません。現在の学生が将来国際社会で活躍しているであろうことを想定し、それに向け、いかなる困難をも乗り越え人材育成に取り組んでまいりたいと存じます。この誓いを表明して、私の式辞といたします。

今回の記念式典特集号発行にあたり、同窓会会長、保護者会会長からもメッセージを寄せていただきました。

### 長崎外国語大学同窓会より

長崎外国語大学 同窓会会長  
吉田 親生

長崎外国語大学同窓会会長で、一部三回生の吉田親生でございます。会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のことと存じます。

この度、学校法人長崎学院は、創立六十五周年を、又、長崎外国語短期大学の伝統を礎として開学された長崎外国語大学は、十周年を迎えました。

本学が、輝かしい歴史の節目を迎えられましたことに對し、同窓会を代表し、心よりお慶びと御祝いを申しあげます。現在、本学の卒業生は、一一、一一



在学生も多数参加しました

名を数え、卒業後は、「語学を生かした平和社会実現」との本学の理念のもと、国内外の多方面で活躍されています。更に本学の発展の為に、世界の各地に広がった同窓会会員の「絆」を深め合う機会を持つことが大切と考えます。

そこで、今年は、同窓会として、支部づくり元年の年と捉え、大学、保護者会等との連携を図り、できる所から、支部結成に向け取り組んで参ります。

どうか皆様、ご支援、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

### 長崎外国語大学保護者会の活動について

長崎外国語大学 保護者会会長  
大川 政明

昨年12月3日に、長崎学院創立65周年ならびに長崎外国語大学開学10周年にあ

たり、記念式典が開催されました。長崎学院は、第二次世界大戦終了後の混乱した時代、語学学習の重要性を鑑みいち早く長崎の地での教育を推進するために創設されたと聞いております。65年の歴史を刻む中で、これまで多くの有用な人物を輩出し、これからも、日本を世界を動かしていく有能な人材の育成に邁進していくことと思えます。長崎外国語大学も10年という節目の年を迎え、4年制大学の教育内容の充実と学生の学習意欲を高める施策が行われ、多くの学生がこのキャンパスで懸命に学んでいます。

さて、こうした懸命に努力する学生が多数存在する中、保護者の皆様の連携を深めると共に、子どもたちの支援や励みになり、子どもたちが大きく育ってくれることを念ずる親心からの思いで、保護者会は成立したものであります。

現在、会員の皆様から会費をいただいておりますが、そのほとんどを学生支援として子どもたちの励ましに使っています。成績上位の学生に限らず、保護者の視点で愛情を持って、学生の真の支援になるよう努めているところです。

保護者会は、成立させていただいてまだ数年という短い歩みではありますが、理事会や総会等の事務運営も整い、学生とのヒアリングやクラブ活動奨励等の活動を進めています。なにとぞ、保護者会の活動につきましてご賢察いただき、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

## 記念コンサートも開催されました



尼崎 裕子さん(右)と  
森 美春さん(左)

記念式典に引き続き、ソプラノ歌手尼崎裕子さんとピアニスト森美春さんによる記念コンサートが催されました。森さんによるピアノのソロ演奏や「からたちの花」(山田 耕筈)、オペラ「蝶々夫人」より「ある晴れた日に」などが歌われ、プロの音楽家の演奏を楽しむひと時を過ごしました。



南津 佳広(右)アガエス ジュリアン(左)  
両講師からの花束贈呈で、会場はいっそう  
温かい雰囲気に包まれました



吉田 義徳 時津町長



田上長崎市長のメッセージを  
代読される三藤 義文副市長



李 文亮 中華人民共和国  
駐長崎総領事

## 祝賀会は ラウンジで 和やかに

記念式典に引き続いての祝賀会は、昨年9月に新たに完成した新ラウンジを会場に行われました。ご出席いただいた来賓の方々からお祝いのメッセージを頂きました。



池田 紘一 第2代学長



光田 明正 初代学長



吉田 親生 同窓会長



お花も各方面から  
多数頂戴しました



祝賀会では懐かしい出会いに、旧交を温めあう姿が多く見られ  
和やかな雰囲気でした



# 新ラウンジ完成！

昨年8月発行の「ぶどうの樹」第8号の特集でもお伝えした、長崎学院創立65周年・長崎外国語大学開学10周年記念事業の柱となる新ラウンジの改装工事が2011年9月に完成しました。学生同士の歓談やグループ作業に、また各種行事を行うイベントスペースとして日々活用されています。

2011年12月21日にはNGOサークルNESTによるキャンドルナイトが、また翌22日には「東日本大震災応援プロジェクト」としてBBSクラブやベリーダンスサークルjasmine\*などによる、チャリティと祈りのイベントが開催されました。イベントの様子とともに完成したラウンジの様子をご覧ください。

ラウンジの完成にあたり、ご協力頂きました同窓生の皆様はじめ本学関係者の皆様に改めて厚くお礼申し上げます。



クリスマスの日が近づく会場内にはツリーも飾られました



会場にはたくさんの祈りのキャンドルに火が灯されていました



留学生も多数参加していました



ベリーダンスサークルjasmine\*による追悼と祈りの踊り



## 記念事業

# 「コミュニケーションラウンジ」の完成について

学校法人 長崎学院  
長崎外国語大学 事務局長 **森脇 浩**

学校法人長崎学院創立65周年・長崎外国語大学開学10周年記念事業にあたり、学内外からの多数の方々にご賛同を賜り、ご寄付をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

皆さまのご寄付によりまして記念事業として計画しておりました「コミュニケーションラウンジ」が2011年9月に完成したことをご報告申し上げます。

このコミュニケーションラウンジへの入口には創立からの学院の沿革や国際交流大学である長崎外国語大学の海外交流協定大学を紹介するコーナーが設けられています。

また、ラウンジは学生たちが憩う場としての役割の他に、学内・学外行事や研究発表の場としても利用できるよう工夫がされており、多目的な利用が出来るようになっています。



ぶどうのスタンドグラスは泉町(住吉)時代のもの



学院の歴史を紹介するコーナー



海外の交流協定大学から贈られた記念品を展示するコーナー

## 寄付金心募のお願い

学校法人長崎学院は、語学教育に長い伝統と実績を持ち、創立以来さまざまな業界で活躍する卒業生を社会に送り出し、高い評価を得てまいりました。これから有能な人材の育成に邁進するとともに、教育および研究活動環境をより一層充実させ、社会に貢献して参りたいと考えております。こうした環境整備のための財政基盤につきましては、もとより本学自身の手により強化していかねばならぬものであり鋭意努力を重ねこれに努めておりますが、少子化を背景とした学校間競争の中、私立学校を取り巻く社会環境は大変厳しい状況にあります。

つきましては教育研究活動環境の整備と充実を目的と致しまして、ご寄付をお願いする次第です。厳しい経済環境のなか誠に心苦しく存じますが、不安な社会情勢の中にあっても人間力を鍛え、勇気と自信を持って世界へ飛躍する人材を育成するために皆様からの温かいご支援をいただきたく、ここに謹んでお願い申し上げます。

\*この募金は趣旨にご賛同いただいた方をお願いする任

### 寄付金の使途について

- (1) 教育研究用の施設設備の取得費等に充当します
- (2) 教育研究に要する経常的経費に充当します

### 募金額について

- ・個人 1口 5千円
  - ・法人 1口 1万円
- (1口未満のご寄付でもありがたくお受けいたします)

### 寄付者の顕彰について

ご寄付をいただいた方を、本学広報誌「ぶどうの樹」やホームページ等で公表させていただきます。匿名を希望される方は、「寄付申込書」の中に匿名希望の旨をご記入くださるようお願いいたします。

### 学校法人に対する寄付に関する優遇制度について

- (1) 個人の場合
  - 学校法人長崎学院に対するご寄付は、所得税の税制上の優遇措置を受けることができます。
  - (平成23年6月に税制が改正され、「税額控除」と「所得控除」のいずれかを寄付者にとつて有利な方を選択いただけるようになりました)

(2) 法人の場合

企業等法人からのご寄付につきましては、寄付金額を当該事業年度の損金に算入できません。なお、次の通り、寄付の手続きにより、損金算入の額が異なります。

①「受配者指定寄付金」として寄付したく場合…

(寄付金の全額を損金に算入することが認められる)

受配者指定寄付金(全額損金に算入できる寄付金)は、日本私立学校振興・共済事業団(以下「私学事業団」)を通じて寄付者が私立学校(私立学校を指定して)へご寄付頂く制度で、いつでもお申込みいただけます。また、この寄付金は全額損金に算入できますので、法人にとって大変有利です。免税手続きには、本学から送付させて頂く「私学事業団発行の「寄付金受領書」が必要となります。

詳細については、学校法人長崎学院法人財務課へお問い合わせ下さい。

②「特定公益増進法人に対する寄付金」として寄付したく場合…

(寄付金の一定の限度額まで損金に算入することができる)

次の計算式に則って、一般寄付金の限度額と同額までを一般寄付金と別枠で損金算入することができます。免税手続きには、本学発行の「寄付金領収書」が必要となります。

詳細については、学校法人長崎学院法人財務課へお問い合わせ下さい。

**個人情報の取扱いについて**

お申し込みの際し、ご記入いただく氏名、住所、その他の個人情報、寄付金業務のみに利用いたします。

**一般寄付金の損金算入限度額**

$$\left[ \begin{array}{l} \text{期末資本金及び} \\ \text{資本積立金} \end{array} \times \frac{\text{事業年度月数}}{12\text{月}} \times \frac{2.5}{1000} \right] + \left[ \begin{array}{l} \text{寄付金支出前} \\ \text{の所得金額} \end{array} \times \frac{5.0}{100} \right] \times \frac{1}{2}$$

損金算入限度額

**申込方法**

まずは学校法人 長崎学院 法人財務課までお電話ください。

寄付に関するご説明をさせていただきます。いただいた上で申し込み書類をお送りします。ご不明の点など、どうぞお気軽にお問い合わせ下さい。

**寄付金に関するお問い合わせ先**

学校法人 長崎学院  
法人経理課  
〒851 2196

長崎県長崎市横尾3丁目15番  
1号

TEL:095 840 2003

FAX:095 840 2001  
(直通)

E mail:

keiri@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp

**ご寄付を頂いた方々**

2010年11月1日より2012年2月21日までのご寄付(敬称略)

個人							
宮崎昭義	杉本尚子	平木輝生	森田正巳	小泉みよし	唐原こずえ		
桑原孫市	金幸治	末永まり子	松永勉	堀井健一	古井興治		
柴田政男	柴田ノブ子	井上義彦	喜友名真理子	藤河摩知子	山本清美		
松本香代子	桃田佳	池本卓見子	井上淳	井手洋一	中岡雅代		
西嶋悦郎	後藤夕美	山口倫子	福森明子	八陣登代美	橋本晴代		
六倉恵子	西島初美	中溝悦美	前田紀子	松本松次	中尾強志		
宮崎賢太郎	蒲原季生	桑原清弘	山田美知子	豆谷啓子	道上正行		
竹之内江里子	荻野貴美子	上野和美	渡部貴	畑田主税	丸木耐一郎		
梅木智	前田文生、公子	小田力	播重豊	田崎紀子	村川クニ子		
寺田絹子	米森正夫	永尾あつ子	秀島和子	上野恭裕	村川海賢一		
中野和枝	宮原康行	野田輝子	田川基夫	空閑次男	西島初美		
金子清美	森光明美	石井真紀子	松本誠	佐野信夫	福島範		
川原美子	大久保倫紀	大久保久子					
法人							
あけぼの建設(株)	(株)長崎消毒社	長崎産業(株)	(株)昭和堂	北三会計事務所	長崎電気軌道(株)		
(有)九宣企画	(株)浦上自動車学校	(株)稲崎産業	(株)長崎電鍵工業	(株)中の家旗店	(株)西九州エレベーターサービス		
(株)キッズコーポレーション	三和通信長崎(株)	デイツ(株)	(株)ティストサプライ	ソフトバンク時津	グリコ牛乳 宮崎		
長崎総合警備(株)	量祐設備(株)	川口印刷(株)	ヨツバ電工	(株)ライセンスアカデミー	(株)サーブネット		
(株)松栄設備	(株)LEOC	(株)貿易広告社	(株)栄美通信福岡	アダチ産業(株)	(株)森美工務店		
在学生							
館正剛	野中洋	本山貴絵	古河さゆり	吉岡みどり	有延裕一		
友利猛二郎	吉田利夫	上村望	山口恵美子	吉岡清一郎	本田繁正		
西住修武	樂村珠美	原田昌実	小牟田武幸	柴田純	杉本有三		
里侑紀	渡邊純子	西村忠	河野絢加	月木修一朗	振津琢磨		
松江貞則	辛島和夫	渡邊栄二	森園哲也	中継弘志	中原寿宏		
中尾一隆	前田由利子	藤川賢一郎	児玉敦	加藤慎二	松木田小夜美		
中島信夫	佐藤孝二	黒田貢介	長濱喜代子	青山重文	島添雅弘		



前田智宏	高木勝己	佐野宏二	松本隆義	出口純次	松中敬雄
徳光俊則	西川真介	濱崎高廣	犬童五百子	芝原讓治	奥野明美
沼田卓八	楠本利孝	中島洋郎	松崎久典	大塚博司	坪井紀幸
山本英人	宮瀬享	金丸哲郎	小松洋司	吉野喜一郎	岡山光一
森田明博					
<b>同窓生</b>					
本多国弘	喜多村隆昭	牧山和義	俵正敏	羽田芳子	田中清長
立川保	宗像信二	熊懷敦子	白木原賢三	吉村敏治	吉岡次男
松本寛齊	松本道子	高木泰文	田端安範	田端久栄	川並忠三
溝上幸雄	八坂邦子	坂井喜美子	内田省三	宮本孝	原田勝三
扇和弘	兼頭祐子	吉田親生	川端撰一郎	増留愛香	原田澄
片山伊勢雄	佐々木典子	安川久美子	種田紹子	森谷和一郎	大山勇太
栗林祐子	浜浦巖	多賀哲篁	古賀善一	原麻理	中野ふみえ
和田清一	竹中ゆかり	出口すゝ美	吉田淳子	鳥越四夫	平野貴子
宇野親子	中小路貴	黒岩照雄	舛田遙子	笠嶋直美	西山信博
藤田市治	吉谷市郎	今泉美治	中尾啓一	今泉美津代	本田由紀
本田紀代子	西村加津子	坂口順隆	宮本康司	岩田耕作	大久保由紀
田平文江	キム・ゴンウ	小道隆	中園美代子	高尾弘	大山勇太
友永美鈴	黒田由美子	梅枝ヨネカ	本田順子	占野裕美子	丸尾英紀
大戸淳	立川栄八郎	川本栄一	鹿毛和仁	森美津子	塩満美代子
松田睦美					
<b>団体</b>					
創世記を読む会	保護者会	同窓会	ワイン有志会		
<b>教職員</b>					
池田紘一	坂上剛	入江清弘	藤崎義隆	藤崎真由美	宮崎伸生
吉永京子	山本敏明	服部萬樹	粟屋曠	山本哲哉	山本薫
柴田精三	森脇浩	戸口民也	関きみ子	丸亀法佳	マラ・クラウディア
杉野博子	阿南婦美代	長野雅文	時尾みよ子	橋本高明	小西哲郎
小鳥居伸介	洲加本周五郎	光田明正	木本雅康	小林由起子	山口初實
伊藤正宣	慶谷壽信	橋野睦	高橋勇造	山下和俊	岡村泰子
洲崎ヒトミ	磯部靖	松添孝雄	中村淳	石川昭仁	安部哲也
吉田雄之進	新居田純野	浦川美子	別所佐和子	大屋富久代	末永幸子
下谷隆子	立川小百合	今村ひろみ	島田千草	田口久美子	中原裕子
山口慶子					

- 1、ご芳名の区分が複数にわたる方はいずれか一つの区分に掲載させていただきました。
- 2、教職員には元教職員・理事・監事も含ませていただきました。
- 3、法人・団体名称は略称を用いさせていただきました。
- 4、各区分別にご寄付頂いた順に掲載させていただきました。



2011年9月23日 泉町校舎跡地に  
記念碑が設置されました



本大工町（現魚の町）に建つ  
創立30周年記念碑



校舎入口の壁面に設置された  
短大の歴史を記念するプレート

お疲れ様でした！



お世話になりました！

本年度をもって本学を退任する教職員の中でも、特に長年にわたって勤務されてきた6名の方々に、退職にあたってのコメントを寄せてもらいました。



田村美代子教授

(スペイン語)

今から38年前、結婚を機に仕事を辞めて長崎に移り住むことになり、母校の先生方に挨拶に伺ったところ、本学でスペイン語の教員を探していることを知りました。くじ運が良かったためしはないのですが、今でもあの時が人生で最高の「つき」だったと思っております。学生や仕事仲間には恵まれ、あちらこちらで迷惑をかけたながらも全うすることができた教員生活は本当に「楽しかった」の一言です。学生・皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。

個人的にはかつていたなどと言いましたが、しかし一方、本学のスペイン語の運命は逆で、目先の状況により断ち切られることになってしまいました。短大・四大を合わせて915名の卒業生、設置に努力された方々、今まで関係してこられた方々の気持ちを感じ、本当に悲し

く、残念でなりません。「ご存じのように、本学のスペイン語教育は、1962年に始まり、本来であれば今年で50周年を迎えるところでした。私学の中で専門的にスペイン語が学べる大学としては、上智大学について戦後二番目に始まっておりまして。しかも短大としては全国唯一でした。四年制大学としても神戸から西にはスペイン語を専門的に学べる大学は現在でもありません。この事実だけでもスペイン語の講座は全国に誇れる本学の財産だったのです。

スペイン語の学生はいつも、明るく個性的でリーダーシップがあり生き生きとしていてと評されてきました。全体的には人数が少なくても、行事等で常に目立つ存在でした。それはスペイン語とスペイン語を話す国々の文化の影響であるともいえま

す。本学にスペイン語は必要です。長崎にスペイン語は必要です。(長崎市はスペイン人コスメ・デ・トレスが生んだ街です)本学の在籍生教職員、卒業生の皆様、是非ともスペイン語の復活のために尽力ください。つきはもういらぬ田村からのお願いです。



戸口 民也教授

(フランス語)

1) 思い出  
長崎外国語短期大学に着任したのは1972年4月です。この3月でちょうど40年になります。いろいろなことがありましたが、とくに力を注いだ仕事はふたつあります。ひとつはキャンパス移転、住吉から今のカンパスに移ったこと。このことです。もうひとつは長崎外国語大学設立です。しかも、キャンパス移転の目的は大学をつくるためでしたから、移転の準備を始めたときから大学開学、そして第一期生を送り出すまでの期間を通算すると、10数年かかりました。苦勞は多かったです

が、目的は達成されましたので、よかったですと思っています。

2) 学生へのメッセージ  
「自分のテーマを見つけたまえ」です。多くのホームページのなかにありますから読んでみてください。  
[http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/oguchi/messages/og\\_message.html](http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/oguchi/messages/og_message.html)  
「フランス語を学ぼうとする人へのメッセージ」と題されていますが、フランス語以外の言葉を学んでいる人にも共通することを書いてつもりです。

この3月に専任ポストから退任することになりました。長い間教職員の皆さん、学生の皆さんと共に過ごせた時間に心から感謝いたします。私が外語短大に着任した当時、ドイツ語の専攻はなく、教養の教員としてドイツ語や文学の科目を担当することから始めたのですが、いろいろな学生の皆さんと知り合えて楽しかったですね。



山口 慶子教授

(ドイツ語)

その当時よく聞かれた質問が外語短大なのに「なぜドイツ語専攻がないの」というものでした。「おっしゃる通りです！」と内心思いながら、どうすればドイツ語専攻が実現できるか、が私にとっての課題でした。幸いなことに、その後設置された国際文化学科でドイツ・ヨーロッパ文化コースを作ることができ、また長崎外国語大学でも、開設の初めからドイツ語を専修言語とするドイツ語コースが設置されました。

ドイツ語の皆さんは個性派ぞろい、勉強に学内行事に頑張る人も頑張らない人もいて、でも伊予島研修やドイツ語週間などみんなの気持ちが一ツになる時間もたくさんありました。卒業生の皆さん、在学生の皆さん、外大で学べたことを一生の宝にして人生を切り開いていってください！

私は1975年から本学院に勤務させていただきました。歳月が経つのは早いもので、気が付けば丸37年も経過しております。通称「学生課のメカネのおばさん」、も寄る年波には勝てず体力が伴いませんので、本年度3月末で退職を決定した次第です。

時尾みよ子さん

(学生支援 室長)

写真嫌いな私は卒業アルバムの写真も10数年変えておりませんが、知る人も少ない若かりし頃の私を公開しましょう。かなりのレア物ですが、どこからか使用前・使用后という声が聞こえてきそうですが？

まあ冗談はさておき、37年間は全く異動もなく、学生支援室(旧学生課)に配属され、学生支援生活面・学習面・入試・留学生受入等の仕事に就き、寝食は決して忘れることなく働かせていただきました。学生や学院に少しでも貢献できたのなら幸いです。皆様、これまで捨てにゃん子にせず面倒見ていただき、ありがとうございます。

長崎外国語大学に勤務する中で、長年にわたって多くの高校生との出会いが多くある入試業務に携わってきました。

毎年4月に説明会などでやり取りした高校生が入学してくる姿を見るのが出来ると、わが子の入学のように嬉しくもあり、また無事卒業してくれるだろうかと不安な気持ちも味わう日々でした。

今年も桜咲く4月には、多くの新入生を迎えることでしょう。これからは毎年楽しみにしていたその美しい光景を、このキャンパスで見ることが出来ず寂しい思いでいっぱいですが、気持ちは常に本学



時尾みよ子さん

(学生支援 室長)

に入学してくる学生を応援して

吉永 京子さん

(国際交流 センター 事務室長)

ひときわ陽ざしが綺麗な1月の土曜日、3月に卒業を控えた本学留学生による茶会に参加した。罇口(にじりぐち)と呼ばれる高さ・幅が60cmほどの小さな出入り口から疎い本格的なもの。茶の道はとんと疎いに年齢順というだけで正客となり、罇口の末尾で入り順を待たず間口に緊張した。

亭主である留学生のお点前や袱紗の捌きを間近にし、また半東をとめる日本人学生たちの所作に触れ、正座にギブアップして胡坐に早々に崩す欧米の留学生に皆がほほ笑み、茶室の狭い空間が五色の大型紙風船の中に居るような、これぞ長崎外国語大学と実感する2時間あまりの茶会。

亭主が仕舞い水を茶釜に注ぎ入れた時、ご指導の先生が説明をしてくださった言葉が心に残る。「釜の音は湯の温度とともに刻々と変化していきます。高く鳴っていた釜に、柄杓でひと汲みの水を注ぐとすと静まり返る。この釜の音のことを松風(しょうふう)と言います。これもまた茶の点前のごちそうなのです。」

長崎外国語大学はごちそうが、ゼいたく品が山のようにある。教職員と学生の近き、各専修言語のイベント、学園祭、スピーチコンテスト、多文化が共生するキャンパス、駐車場の広さ、学生食堂、いつも掃除が行き届いたフロア、早朝には必ず門が開いていること、毎朝コピー機には用紙が補充されていること、松風にはお湯が沸いていること、水屋のごとくいつも驚沢な音を立てている職場でありそして我が母校を誇りに思う。29年間に心から感謝、ありがとつございました。



吉永 京子さん

(国際交流 センター 事務室長)

# 学校法人長崎学院 2010(平成22)年度決算報告

本学の財務状況については、学校法人会計基準に基づき、資金の動きを表す「資金収支計算書」経営状態を表す「消費収支計算書」財務状況を表す「貸借対照表」により表されています。以下は2010(平成22)年度の決算の概要です。資金収支計算書では資金収入の総額は12億1,316万円、資金支出の総額は12億3,075万円となっており、次年度へ繰り越す支払資金は2億7,572万円(前年度比1,760万円)となっています。これは東日本大震災による留学生の減少による前受金の減収が主な要因です。消費収支計算書では「就業力育成支援事業」の採択その他国庫補助金の大幅増収等により帰属収入合計額は12億5,705万円となりました。補助事業に関する支出により消費支出の合計額は12億1,539万円となりましたが、結果として4,166万円の黒字決算となっています。貸借対照表は、学校法人の年度末における財産の状態を示すものです。資産総額は62億6815万円、負債総額は26億2449万円であり、差し引き正味資産(自己資金:基本金+消費収支差額)は36億4366万円となっています。また純資産額(総資産額-総負債額)については、前年度末に比較して4166万円の増額となっています。

## 資金収支計算書

〔収入の部〕				〔支出の部〕			
科目	平成22年度予算	平成22年度決算	差 異	科目	平成22年度予算	平成22年度決算	差 異
学生生徒納付金収入	810,413,000	780,004,500	30,408,500	人件費支出	500,468,000	527,131,269	26,663,269
手数料収入	7,390,000	6,495,675	894,325	教育研究経費支出	289,949,000	298,512,706	8,563,706
寄附金収入	0	6,919,515	6,919,515	管理経費支出	164,775,000	165,213,571	438,571
補助金収入	147,474,000	227,560,984	80,086,984	借入金等利息支出	62,259,000	62,261,337	2,337
資産運用収入	1,150,000	1,275,713	125,713	借入金等返済支出	145,167,000	153,261,662	8,094,662
資産売却収入	0	8,095,000	8,095,000	施設関係支出	4,954,000	7,826,700	2,872,700
事業収入	185,910,000	173,711,147	12,198,853	設備関係支出	13,762,000	29,427,309	15,665,309
雑収入	9,904,000	27,481,659	17,577,659	資産運用支出	0	3,001,398	3,001,398
借入金収入	0	0	0	その他の支出	24,127,070	21,657,735	2,469,335
前受金収入	244,366,000	188,507,893	55,858,107	予備	5,000,000	5,000,000	5,000,000
その他の収入	43,623,476	48,697,869	5,074,393	資金支出調整勘定	24,128,948	37,539,364	13,410,416
資金収入調整勘定	250,058,826	255,592,569	5,533,743	次年度繰越支払資金	307,158,432	275,721,967	31,436,465
前年度繰越支払資金	293,318,904	293,318,904	0	支出の部合計	1,493,490,554	1,506,476,290	12,985,736
収入の部合計	1,493,490,554	1,506,476,290	12,985,736				

## 消費収支計算書

〔消費収入の部〕				〔消費支出の部〕			
科目	平成22年度予算	平成22年度決算	差 異	科目	平成22年度予算	平成22年度決算	差 異
学生生徒納付金収入	810,413,000	780,004,500	30,408,500	人件費	500,468,000	528,290,281	27,822,281
手数料	7,390,000	6,495,675	894,325	教育研究経費	361,608,000	372,547,452	10,939,452
寄附金	3,500,000	9,725,468	6,225,468	(減価償却額)	(71,659,000)	(74,339,746)	2,680,746
補助金	147,474,000	227,560,984	80,086,984	管理経費	240,220,000	240,808,222	588,222
資産運用収入	1,150,000	1,275,713	125,713	(減価償却額)	(75,445,000)	(75,594,651)	149,651
資産売却差額	0	0	0	借入金等利息	62,259,000	62,261,337	2,337
事業収入	185,910,000	173,711,147	12,198,853	資産処分差額	0	11,480,127	11,480,127
雑収入	9,904,000	58,275,819	48,371,819	徴収不能額	0	0	0
帰属収入合計	1,165,741,000	1,257,049,306	91,308,306	予備	5,000,000	5,000,000	5,000,000
基本金組入額合計	167,331,000	139,372,201	27,958,799	消費支出の部合計	1,169,555,000	1,215,387,419	45,832,419
消費収入の部合計	998,410,000	1,117,677,105	119,267,105	当年度消費支出超過額	171,145,000	97,710,314	
				前年度繰越消費支出超過額	1,991,240,854	1,991,240,854	
				基本金取崩額	0	0	
				翌年度繰越消費支出超過額	2,162,385,854	2,088,951,168	

## 貸借対照表

〔資産の部〕				〔基本金の部〕			
科目	本年度末	前年度末	増 減	科目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	5,968,198,025	6,094,836,239	126,638,214	第1号基本金	5,653,617,609	5,514,245,408	139,372,201
有形固定資産	5,867,829,678	5,997,179,424	129,349,746	第4号基本金	79,000,000	79,000,000	0
その他の固定資産	100,368,347	97,656,815	2,711,532	基本金の部合計	5,732,617,609	5,593,245,408	139,372,201
流動資産	299,953,673	340,041,260	40,087,587				
資産の部合計	6,268,151,698	6,434,877,499	166,725,801				

〔負債の部〕				〔消費収支差額の部〕			
科目	本年度末	前年度末	増 減	科目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	2,207,301,267	2,386,015,079	178,713,812	翌年度繰越消費支出超過額	2,088,951,168	1,991,240,854	97,710,314
流動負債	417,183,990	446,857,866	29,673,876	消費収支差額の部合計	2,088,951,168	1,991,240,854	97,710,314
負債の部合計	2,624,485,257	2,832,872,945	208,387,688				

〔負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計〕			
科目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	6,268,151,698	6,434,877,499	166,725,801

## 留学生受け入れのホストファミリー募集

本学では、アメリカ、イギリス、フランス、カナダ、中国、台湾、韓国と様々な国から毎年延べ100人近くの短期留学生を受け入れています。彼らは半年から1年間を長崎で過ごしますが、多くが日本語、マンガやJ-POP等日本の文化に関心を持ち、ありのままの日本の家庭生活を体験してみたいと希望しています。ホテルや旅館のようなおもてなしを受けるのではなく、普段の市民の生活を体験したいと希望しています。

皆様のお宅でも、留学生を受け入れてみませんか？

過去にホストファミリーとして留学生を受け入れられたご家庭の中には、学生の帰国後も交流が続き本国での結婚式にも招待された、など交流をその後も続けている方もいます。受け入れる側にとっても日本に関心を持つ留学生と様々な話をする事で、日本についてや長崎について、新たな発見の機会となるかもしれません。

受け入れには本学まで通学出来る範囲内であることなどいくつか条件はありますが、少しでも関心をお持ちでしたら、まずはお気軽にご連絡ください、お待ちしております。

国際交流センター事務局 電話095-840-2002 ic@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp

## 在校生インタビュー!



愛用のフェアトレード産品を手にする藤田さん

藤田勇樹さんは現在、国際コミュニケーション学科韓国語専修の2年生です。韓国語を学ぶきっかけや力を注いでいるサークル活動など、学生生活について話を聴きました。

韓国語を学ぼうと思ったきっかけは何だったのですか？

高校時代に観た韓国映画でしようか。とても面白く、こういう映画を字幕無しに観られる様になりたいな、と思いました。実際に韓国語を学んでみての感想は？

日本語に似ている部分もあり馴染みやすく覚えやすいですね。発音もすんなり耳に入ってくる感じがしますし、楽しみながら学んでいます。

サークル活動にも力を注いでいるそうですね

はい。NEST(Nagasaki Expressive Student Team)というNGOサークルの代表をしています。入ったきっかけは、自分が高校時代に取り組んでいたエコキャップ活動をしていたので親しみを感じた事と、何らかの国際協力を大学でも継続したいと思ったからです。

「エコキャップ活動」とはどのようなものですか？

ペットボトルのキャップを回収して得た資金を「世界の子どもにワクチンを日本委員会」を通じてポリオワクチンを途上国

の子どもたちに届ける活動です。ただ実際にはキャップの輸送費や管理費が結構掛かたりする様ですが、色々な支援の方法について学びながらそれを広める活動しているところです。またフェアトレードの産品を学園祭で販売したり、昨年12月には初めてキャンドルナイトを新しい学生ラウンジにて実施しました。これはクリスマスの時期という事もあってか雰囲気も良く、大変好評でしたので継続して実施していきたいと考えています。

次回は4月27日に実施予定です。今年2年生、入学してほぼ2年間が経過しましたが、本学に入学してみても率直な感想を聴かせて下さい。

学生生活は普段の勉強の予習・復習やNESTの活動などで忙しく充実しています。

入学前とのイメージの違いと言えば留学生が多かったり、アフリカや東南アジアなどからの留学生もいて多文化背景のものかと。様々な文化背景の人達と交流の機会が増えるとおおいですね。それでも語劇祭はじめ外国語大学ならではの行事が色々あるのは魅力的ですね。

今、特に興味を持って学んでいる事などありますか？

「地域活性化」にも興味があり、フェアトレードと結び付けられないかと個人的に勉強しています。どうしたらその地域が生き生きとするのか？大学が地域に果たすことの出来る役割は何なのか、など。きっかけは長崎市の企画「長崎遊学」のイベントに参加した事でした。それから地域の住みやすさ、働きやすさなどについて関心を持

つよつよになりました。

フェアトレードへの関心から地域の発展にも興味が増えた、という感じでしょうか。

はい。フェアトレードの産品を買う側も、また生産する側も双方にとって有益となる仕組みがフェアトレードですので、その仕組みが地域活性化に貢献できないかと模索中です。現在学内の売店にもフェアトレードのコーヒーや雑貨を置いて販売してもらっています。中でもチョコレートが一番人気です。

今後の目標は？

「もっと身近に、より継続的に、そして多くの人に」をモットーに、地道に活動を継続していきたいと考えています。今後はせっかくなし、雰囲気もいい学生ラウンジが完成したので、月2回ペースくらいでフェアトレードカフェのイベントを開いていきたいです。

インタビューは秋学期の定期試験最終日に行われました。藤田さんは今月末にはタイに支援のあり方を学ぶために出掛けるとの事でした。

自分の興味・関心を掘り下げながら、考えつつ行動する表情は生き生きとしていました。

藤田さんが代表を務める NGO サークルの活動の様子は <http://nest-nagasaki.go.jp/> をどうぞご覧ください。お問い合わせは [nest-nagasaki.go@gmail.com](mailto:nest-nagasaki.go@gmail.com)



美しい織物のペンケースやパッチワークの様な小物入れなど

フェアトレード...発展途上国の農産物や雑貨などを、適正な価格で輸入・消費する取り組み。低賃金労働を強いられる傾向のある途上国での雇用を創出し、貧困解消や経済的自立を促すねらいがある。出典：yahoo! 百科事典(小学館)「ニッポコカ・プラス」

## 私の一冊

『NHKスペシャル 長崎 よみがえる原爆写真』



NHK取材班・著(日本放送出版協会、1995年) 本書は、被爆50年を迎えた1995年にNHKでテレビ放送された「長崎 映像の証言」よみがえる115枚のネガ」という番組の取材過程を追ったドキュメントである。

長崎への原爆投下の翌日、軍のカメラマンだった山端庸介は、福岡から陸路長崎市内に入り、壊滅した街と傷つき斃れた人々の姿をフィルムに収めた。50年後、アメリカ国内で山端の写真展が開かれるのに合わせて、NHK取材班は写真に登場する被爆者を探し出し、その証言を取る。

山端の写真は誰もが一度は見たことがあるのではないかとと思う。彼の写真は、現存するなかで被爆後最も早い市内の様相を捉えた貴重なもので、長崎原爆を語る際には繰り返し使用されてきた。炊き出しのおにぎりを手にしたまま佇む幼い子供とその母、傷ついた弟を背負い市内を彷徨する兄、真つ黒に焼けた少年の遺体。私も、小学生の頃から何度も夏の平和学習などの機会に彼の写真に触れてきた。あまりにも痛ましく、ときに戦慄すらおぼえる写真のなかの現実を前にして、最初は正視することができず目を伏せていたことを覚えている。

本書には、「おにぎりを持った母」、「弟を背負った兄」など、山端が写した人物本人の、或いはそれに関わる人物の証言が採録されている。それは確かに67年前の長崎で、例えば浜口町で、茂里町で、道ノ尾駅で、人々の日常を襲った現実だった。

原爆投下という世界史上の重大事件として、そして幼い頃からある意味見慣れてしまった写真から醸し出される現実離れた印象から、私は時にこの事実がどこか遠い「歴史」であるかのように錯覚することがある。しかし、今この足もとと地面の下には原爆に燃えた土があり、そして私を含め長崎の人々はそれを60余年のあいだ踏みしめながら戦後を生きてきた。本書を読み、「歴史」と現在の私たちの繋がりを再確認させられるようだった。生前山端は、自らの長崎の写真の使用依頼に対して、政治的な目的や、ある主義主張に傾倒したかたちでの使用を固く禁じたという。この圧倒的な現実の前ではそのようなものたちは不要なのだろう。



このなか 一宮 啓祥 (キャリア支援室係員)